

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名 前：金谷昴保(かなたに たかやす)

勤務先：加古川中央市民病院

診療科：小児科

卒 後：7年目

【経歴】

2020年3月神戸大学卒業

2020年4月～2022年3月

製鉄記念広畑病院(現はりま姫路総合医療センター)初期研修医

2022年4月～2023年3月

県立淡路医療センター 小児科

2023年4月～2024年3月

県立丹波医療センター 小児科

2024年4月～2025年3月

県立淡路医療センター 小児科

2025年4月～2025年9月

神戸大学医学部附属病院 小児科

2025年10月～

加古川中央市民病院 小児科

【医師になってからの7年間を振り返って】

(初期研修を振り返って)

大学を卒業してから製鉄記念広畑病院で初期研修医をさせていただきました。現在は別の病院になってしまっていますが、地域を担う急性期病院で2年間お世話になりました。3次救急も受け入れる病院であり、初期研修医1年目の割と早い段階から自分で実際に手技を行うことが多く、緊迫感のある場面も多かったのですが指導医の先生方に手厚くご指導いただき2年間で終わることができました。また、大学卒業時に自分の専攻する診療科がまだ決められていなかったため2年の中で専攻する診療科を決める必要がありました。内科と小児科でとても迷っていたのですが、これから長年自分の生業にしていく仕事として楽しいのはどちらかを考え悩みに悩んだ結果小児科医の道に進ませていただくことにしました。

(小児科専攻医になり、3年を振り返って)

小児科専攻医になってからは淡路医療センターに2年、丹波医療センターに1年勤めました。1年目の淡路医療センターは全く右も左も分からない状態で始まりました。初めて診る疾患や徴候ばかりで分からないことがあればその都度上級医の先生に相談し、アドバイスを沢山いただき、common diseaseを一通り経験しました。ヘリコプターでの転院搬送もさせていただき、とても貴重な経験ができました。

2年目は丹波医療センターで勤務しました。丹波医療センターは一次の患者も受け入れており、外来の当日患者は午前だけでも多い日で30人以上受診していました。救急外来にも沢山患者が受診し、適切かつ正確な診療を求められました。自分自身、100%正確な診療ができたかはわかりませんが緊急性のある疾患を最初に除外し、その後は診察所見や検査所見から診断を行う練習ができたと思います。また、アレルギー疾患に触れることが多くなり、食物負荷試験や舌下免疫療法、喘息治療など多岐にわたるアレルギー診療を経験することができ、非常に勉強になりました。

3年目は再度淡路医療センターで勤務することになりました。上級医がその年は1人しか居ない状況で常勤医師では自分が上から2番目の立場になり、責任を感じる部分が多かったのですがそれでも困っていれば上級医の先生が親身になって助けて下さり、1年勤めきることができました。その1年で思い出に残っている出来事としましては血尿で外来観察中だった児が定期外来で胸痛を訴えていました。そこまで強い痛みではなく特発性の胸痛かなと思い、軽い気持ちでレントゲンを撮影したところ心陰影の拡大があり、急いで心エコーを上級医の先生と行ったところ拘束型心筋症が判明しました。上級医の先生も医師になってから2例目であつたらしく貴重な症例を診させていただくことができたと思います。

(神戸大学医学部附属病院、加古川中央市民病院を振り返って)

神戸大学附属病院では血液、腎、代謝内分泌神経、新生児と一般の市中病院では経験できない症例が多く、勉強の日々でした。手技に関しても新生児の気管挿管や腰椎穿刺などを一般病院と比較して沢山させていただきました。専攻医が多く、切磋琢磨しながら研鑽を積むことができたと思います。

加古川中央市民病院に2025年10月から勤務していますが専攻医を修了し、スタッフという立場で働かせていただくことになりました。自分自身一般小児のICU経験が少なかったこともあり、ICUの患者さんを実際に持ってみると全身状態を時間単位で確認し、それに合わせて治療や検査を組み立てていくことや先を読んで指示を入れることの難しさを感じることができました。今は専門医試験が迫っており、その勉強中になりますが今後はアレルギーをサブスペシャリティーとして考えています。加古川中央市民病院でアレルギーは勿論ですが、今後上級医や指導医になっていくにあたり多くの技術やスキルを学んで今後の診療に生かしていきたいと思っています。

(7年間を振り返ってのまとめ)

7年間を通して地域の小児医療に携わる中で楽しいことばかりではなく、辛いこともありました但那な時も周りの同僚、上級医だけでなく、他職種の方々や患者さんからの感謝の言葉に支えられてここまで働くことができたと思います。これからも周りの方々への感謝を忘れずに小児科医として日々研鑽に励んで行きたいと思っています。